ある都市と地方の一票の格差が解消されてさえいれば、政権交代が実現していたのですが、日本の歴史はそんなに単純ではありませんでした。だから、面白くもあるわけですが・・・。東京などは民主党が単独で衆議院の議席の過半数をとりました。そして、二〇〇一年三月ごろまでには、自民党政権支持率が一桁前半までに落ち込み、いよいよ参議院選挙での与野党逆転、その後すぐに行われるだろう衆議院選で政権交代というシナリオを多くの有識者が書いていました。わずか、九ヶ月前です。そのシナリオでいくと、ちょうど、二〇〇一年の秋・冬が政権交代の時期でした。しかし、歴史は、そんなに単純ではありませんでした。四月小泉純一郎総理の劇的なデビューです。今度は、国民の多くが、小泉総理によって今までの政治が改革されると信じました。そして、期待しました。しかし、ここに来て、来年度予算編成が終盤戦にさしかかるあたりくらいから、やはり政官業癒着・族議員の集合体である自民党型政治が再び息を吹き返しました。そして、そのもとで経済はぼろぼろ。失業率は六%にも近づき、国債はどんどん格付けが下がります。実質的な改革が皆無になってしまったことが十二月の末に予算で明らかになります。

私も文教科学委員として就任以来一貫して奨学金制度の充実問題を取り組んで来ていますが、実は鳩山代表も、コンクリート依存型の経済産業政策をいち早く脱し、知恵や人を大事にした経済産業政策への転換を推し進めるために、予算構造改革についての議論をしたかったのです。「国民の税金をコンクリートから人づくり・知恵づくり」にどれだけ回せるかが本当の構造改革だということを訴えたかったのです。公共事業予算の対GDP比率をとると、日本は六.二%、米国は一.九%、独二.〇%、英一.二%、とあきらかに突出しています。そして、将来の人づくり・知恵づくりのための予算、たとえば、高等教育費の対GDP比率は、日本〇.七%、米一.一%、独一.五%、英一.三%。この数字で問題は明らかだと思いますが、知の国ニッポンづくりのための予算が道路などのコンクリート予算のわずか九分の一であるという日本の予算の実態をまずは変革していきたい、そして、将来への希望をつくりだすことが、株価を改善し投資意欲をかきたてるのだということで本年最後の国会を締めくくる予定でしたが、幻に終わりました。幻に終わったことも何かの意味があると思っています。

九月初頭以来、民主党の実態もよくみることができました。何が出来ていて、何が出来ていないのか、何が足りないのか、かなりわかってきました。率直に申し上げると、現時点で、三月ごろのシナリオ通り民主党が本格政権を担うだけの準備が整っていたかと問われれば、やはり、少し無理だったと思います。確かに、民主党という政党は、テロ法案をめぐる民主党議員達の海外情報収集ネットワークの充実ぶり、また今国会中、本会議、委員会での演説・質疑・発言から明らかになった民主党と自民党の議員の実力差などから判断して、民主党が、実に有能で多様な力のある人材が集まっていることは明らかであります。しかしそれが組織の力になっているか?と問われれば、政権を担うまでにしっかりしたものになっているとはいえないこともまた事実だからです。だから、今国会では、組織の力をつけるために造反議員処分にあえて踏み込むということを鳩山代表は決断したわけですし、菅幹事長も、民主党の組織改革について今一生懸命知恵を絞り、着手しているということもお伝えをしたいと思います。こうして、序々に今国会を期に、組織としての総合力強化の挑戦がはじまりつつあることも、ご理解いただきたいと思います。私も、微力ですが、違ったアプローチで頑張っていきたいと考えています。私の弟分、鈴木烈君が葛飾区議選挙で今までの常識を全く覆すトップ当選を果たしたのもそのごく一部ではありますが、このアプローチについては、今後、あせらずじっくり取り組んでいきたいと思っております。

今国会、いろんな局面に直面することができました。歴史の神様というものがいるとすれば、民主党が、まだ、新時代を完全に担うだけの勢力が十分に成熟していないことを見抜かれているなと思います。そして、その歴史の神が、我々がその準備ができるまでの間、小泉総理を登場させてきたのだと思います。

しかし、来年から小泉総理の改革の失敗が、次第に、白日の下に晒されてくると思います。ワイドショーがいくらがんばっても、今の景気の低迷、失業者の現状から、小泉内閣の失政を隠蔽することはいよいよできなくなってくると思います。そうすれば、いかに、多くの人々が不条理にも旧体制の犠牲になってきたか?もっと明らかになります。

歴史の変わり目においては、本当に歴史はものすごい勢いで、変化していきます。早晩、小泉内閣では、もうこの国の運営は無理だとの評価と雰囲気になってくると思います。小泉政権のあら探しをするよりも、一刻も早く、鳩山チームを政権担当できるレベルまで引き上げておくことが大事だと思っています。政策の立案・判断能力については、もう大丈夫だと思います。組織的対応力については先ほど申し上げたように、今国会で脱皮できたと思っています。後は、それをTVや直接対話などを通じ、わかりやすく有権者の皆様にプレゼンテーションしていく力など、広報は少し改善する必要があると思います。

いよいよ、日本の現在と将来を心から憂える人々が、今こそ真剣に日本の現状を直視し、旧来の考え方、思想、態度、仕組み、システムでは、これ以上にっちもさっちもいかないのだということを思い知り、日本再建・再生のために真剣に立ち上がらなければならない時が早晩くると思います。そうした、自発・連携・協働の「志民」運動が、全国各地から湧き上がってくるまで、様々な試練は続くのだろうとも感じます。この試練に対して、新年をもって、恐れず、怯まず、真っ向取り組み、そうした「志民運動」に全身全霊を捧げていくことを改めて皆様にお誓いしたいと思います。

日頃、十分に皆さんにお会いできないことを心からお詫び申し上げ、日頃の皆様のご理解・ご支援に心から感謝申し上げ今後、益々のご指導とご支援を心よりお願い申し上げます。ありがとうございました。

二〇〇一年十二月吉日

参議院議員　鈴木寛

「Suzukan. Tv」インターネット放送中！

URL→ http://www.suzukan.tv/

「自分の情報発信のためのメディアが欲しい」と、議員会館635号室を、スタジオに作り変えてしまった鈴木寛が”studio635”から旬のネタを題材に豪華ゲストをお迎えしてトーク番組発信中！　＊毎週水曜日更新

＊＊オンデマンド放送により、いつでも好きなときにご覧いただけます。